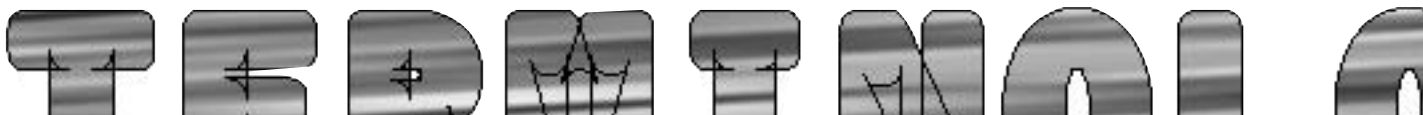


TERMINOLOGY of Internet



■モザイク【Mosaic】

WWWサーバーに格納されている情報を読みとるためのブラウザの1つ。米イリノイ大学のNCSA (National Center for Supercomputing Applications : 全米スーパーコンピューティングアプリケーションセンター) で開発され、1993年9月に発表された。

WWWサーバーにはハイパーテキストの構造を持った文字、音、画像などを格納できるが、モザイクの発表以前にはこの機能を十分に引き出すブラウザが世の中にはなかった。モザイクの登場によって、インターネットでのマルチメディア情報の取り扱いが劇的に改善され、今日のブームをもたらした。

WWWブラウザ(ビューアのこと)を使ってサーバーにアクセスし、読み込んだ画面を見るとアンダーラインを引いた文字や周囲とは違う色で表示された単語があることに気づく。これをホットスポットというが、それらをクリックすると次の画面へジャンプするような仕組みになっている。もし他のサーバーにリンクされているとそこに接続される。そのサーバーでさらに次にリンクされているとまたジャンプし、このようにして世界中の情報を入手することができる。WWWブラウザを使うと世界中のネットワークをあたかも航海しているように思えることから、これをネットサーフィンという。

WWWブラウザには、イリノイ大学のNCSA Mosaicや米ネットスケープコミュニケーションズ社が開発したNetscapeなどがある。WWWブラウザは機能的にWWWサーバーに対応しているので、これらのプログラムをWWWクライアントと呼ぶこともある。

■クライアント【client】

ネットワーク上のサーバーから提供される情報を処理して、利用者の画面に表示するプログラムのこと。WWWサーバープログラムにはWWWクライアントプログラムが対応し、GopherサーバープログラムにはGopherクライアントプログラムが対応するという関係になっている。

■WWWサーバー【ダブリューダブリューダブリュー～】

WWWはWorld Wide Web【ワールドワイドウェブ】の略。1989年にジュネーブにあるCERN【サーン】(Conseil Européen pour la Recherche Nucléaire : 欧州合同原子核研究機関)のティム・バーナーズ・リーらによって開発されたハイパーテキストベースの情報検索の仕様。インターネット上に分散しているファイルやサービスなどのコンピュータ資源をリンク構造で関係づけて、さまざまな情報を参照できる仕組みのこと。文字にかぎらず、音、画像、動画も含めたマルチメディア情報が扱える。この仕組みを利用すると、情報を1か所に集中させて格納する必要はなく、世界中に点在している情報を共有することもできるようになる。この検索システムはhttpdというサーバープログラムによって実現されているが、これを使用しているネットワークノードをWWWサーバーという。

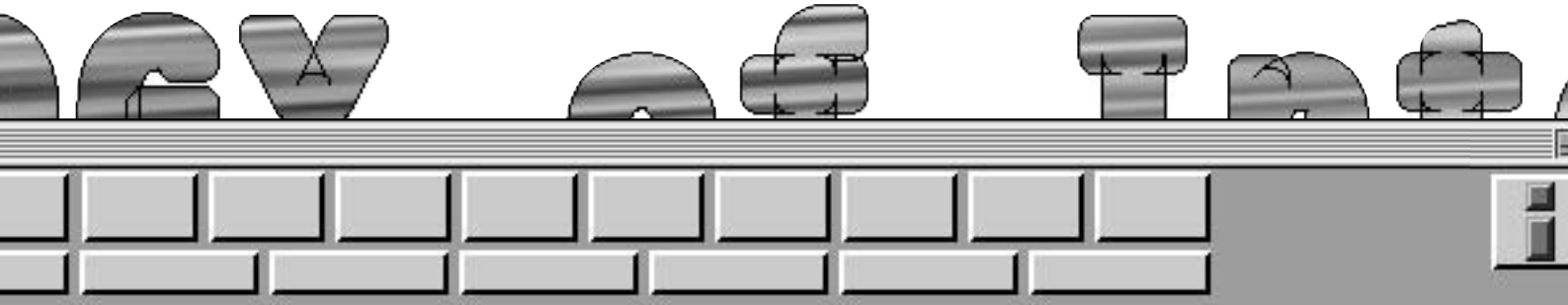
リンクの構造は脚注記号と脚注の関係にたとえられる。文中にマークされた記号と同じ記号がついている脚注を参照することによって、詳しい情報が得られるようになっている。WWWではこれに相当するリンク情報が文書に埋め込まれているが、利用者には単語やアイコン、メニューの形で示される。このホットスポットをクリックすると、リンク情報としてURLが埋めこまれている場合、そのURLが示すページ(他のサーバーでも可)にジャンプする。これを繰り返すことで、他のサーバーへ次々にリンクすることができる。実際には、これらの一連の操作はWWWブラウザというクライアント側のプログラムが自動的に行ってくれる。

同等のサーバーとして、ソフトウェアの検索用にはArchie【アーキ】、ファイルの検索用にはGopher【ゴファー】があるが、現在ではWWWが最もよく使われている。

WWWサーバーは発音が長いので、現在はWebサーバーが呼称として一般によく使われている。Webを「ウェブ」と表していることもあるが、辞書のウェブスターと同じなので、ここでは「ウェブ」とした。

インターネットは新しい技術です。新しいアイデアが次々に生まれ、このアイデアを的確に伝えようとして新しい用語も生まれています。このコーナーではそうしたインターネットに関連する用語の解説を行います。言葉は誰かが独占するというものではありません。このコーナーを窓口にしなが、インターネット上でおいにディスカッションしたいと思っています。ご意見お待ちしております

E-mail to : ip-term@impress.co.jp



■サーバー【server】

サーバーと言えばクライアント/サーバー（C/S）システムのサーバー機をイメージしやすいが、インターネットではhttpdなどのサーバープログラムのことを指している。C/Sシステムではクライアントとサーバーの機能は固定されているが、ネットワーク上ではソフトウェアの機能によって区別され一定していない。クライアントプログラムを動かしているときにクライアント機であり、サーバープログラムを動かしているときにサーバー機になる。

■ホームページ【home page】

WWW（World Wide Web）サーバーにアクセスするときの起点になるページ。WWWサーバーにアクセスするときは、まず最初にこのホームページを指定することになる。ここに埋め込まれているリンク情報（ホットスポット）をクリックすれば、別のページや他のサーバーへジャンプすることができる。WWWページと呼ぶこともある。

Webにはクモの巣という意味があるように、WWWサーバーは完全にシームレス（継ぎ目がない）であり、世界中に点在している。ホームページはこれを視覚的に示すことで、必要なサーバーの場所をわかりやすく示す役目を果たしている。どこか1つ関連のホームページがわかれば、そこを起点に目的のサーバーにたどり着ける。

■What's New【ワッツニュー】

モザイクなどのWWWクライアントを使ってWWWサーバーにアクセスすると、最初にホームページが表示される。このホームページによく見られるホットスポットの1つにWhat's Newがある。ここをクリックすると、そのサーバーで提供している新しい情報が入手できる。“What's New”とは「新しいもの」といった意味。報告書などに「新製品情報」といった意味合いで使われることもあり、とくにWWWサーバー特有のフレーズというわけではない。

ある食品メーカーのコピーに「What's サラダ油」があるが、この場合の解釈は、おそらく“What's New with Sarad Oil”あるいは“ What's New about Sarad Oil”になる。

■ハイパーテキスト【hypertext】

小説は1ページずつ順番に読まないという意味をなさないが、辞書や百科事典の類では語句を相互に参照しながら利用するのが普通である。これと同じような構造を、キーワードとして選んだ語句にリンク情報として埋め込み、文書内あるいは文書間で自由にジャンプできるようにしたテキストをハイパーテキストという。このアイデア自体は古くからあったが、テッド・ネルソンによってハイパーテキストと名付けられた。ハイパーとはいま流行の「超～」程度の意味。現在ではテキストにかぎらず、静止画や動画にもリンク情報を張り巡らして、ハイパーテキストとマルチメディアを複合させることができるので、ハイパーメディア（hypermedia）と呼ぶこともある。したがって、WWWブラウザはハイパーメディアブラウザの1つともいえる。

■HTML【エイチティーエムエル】

Hyper Text Markup Languageの略。文書整形ソフトとして有名なLaTeX〔ラテック〕と同じ構造化タグ言語の仲間。WWWサーバーに格納する文書はHTMLで作成する。その文書の参照や論理構造は、タグと呼ばれるマーク（<>）を文書に埋め込むことにより決めている。たとえば、<p>と記述して、neko.gifのイメージファイルを文書に組み込めば、サーバーで提供することができる。この文書を1つの作品と考えるとHTMLタイトルと呼ぶこともある。

WWWクライアントはHTMLで記述された文書をWWWサーバーから受け取ると、タブ情報から文書の構造を読み取って、この部分にはアンダーラインを引く、この文字の色は変えるといった解釈を行い、画面に表示する。HTMLはフォントの種類や大きさには依存していないので、機種やクライアントに関係なく記述でき、他のシステムとのデータ交換や他のタグ言語との変換が簡単に行える。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp